

岡山県視察研修 報告書

令和 5 年 11 月 15 日

坂原 正勝

日 程：令和 5 年 11 月 6 日(月)～11 月 7 日 (火)
場 所：①美咲町役場・②津山市役所・③西栗倉村役場
参 加 者：竹原議長・松尾副議長・谷地監査委員・大里議員・早川議員
中原議員・奥野議員・道工議員・谷崎議員・出口議員・瀧見議員
坂原
事務局 増田局長・池田係長

研 修①

日 時：令和 5 年 11 月 6 日(月)13 時 30～16 時

場 所：美咲町役場 3 階本会議場
岡山県久米郡美咲町原田 1735

担 当：松島議長・佐居副議長・山本（宏）議員・延原議員・中西議員
矢吹議員・山本（資）議員・松田議員・形井議員・小林議員
則吉議員・三船議員・板垣議員・藤井議員
事 務 局 水島局長・山本書記・池上局員

内 容：美咲町と岬町は、全国で二町しかない（みさきちょう）として
令和 2 年 11 月 3 日に友好交流都市協定を結んで以来、相互訪問やオ
ンラインを活用しながら行政職員交流・小学生交流・文化交流など
を深めてきた。議会としても交互に訪問して視察研修などを通じ親
交を深めている。
今回は、美咲町議会の活動について説明を受けた後、意見交換を行
った。

○美咲町では令和 3 年 6 月議会からタブレット端末で資料を確認する
ペーパーレス議会をスタートしている。タブレット端末を導入する
ことにより、経費削減と議会運営の効率化が図れることは既に、
導入自治体では実証済み。岬町の周辺では泉佐野市・泉南市・阪南

市・熊取町が導入済み。田尻町は来年度の導入を決定している。
これまでに、タブレット端末導入先進市町の京都府精華町・熊取町を訪れ調査研究。11月20日には泉南市を視察し、導入に向けた取り組みを進めている。

○地震や風水害などの非常時における議会や議員の対応を定めた「業務継続計画（BCP）」についても、美咲町では本町より詳細で具体的な内容になっており、さっそく岬町でも詳細の検討に取り組んでいる。

○若い世代との交流については、小学生・中学生・高校生・短大・大学生とパートナーシップ包括協定を結ぶなど対話交流を図っている。
本町での子ども議会の定期開催の取り組みに、ぜひ活かしていきたい。

○住民と議員が意見交換する出前議会を町内各地で実施し、空き家対策や若者の町づくり参加などの課題について議論。一緒に解決策を考える機会を持っている。本町では11月19日に第2回目のおしゃべりカフェを開催し、住民の声を聴き行政に届ける取り組みを進めているが、運営方法など参考にしたい。

○美咲町議会は2021年度、岡山県内では初めて、全国町村議長会から特別表彰を受賞している。議会改革に積極的に取り組み国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の実践が評価されたもの。
また2022年度には地方自治体や民間団体による政策への取り組みを表彰する「第17回マニフェスト大賞 躍進賞」を受賞するなど、学ぶべき点は多数。今後も引き続き、研修を重ね先進事例を積極的に取り入れていきたい。

研 修②

日 時：令和 5 年 11 月 7 日(火)9 時 30～11 時 30 分

場 所：津山市役所議会棟 2 階第 1 委員会室
岡山県津山市山北 520 番地

担 当：中島議長

産業経済部 平次長・小椋主幹

事 務 局 竹谷主任・近藤主査

内 容： テーマ「移住・定住について」

2010 年には 106,788 人だった人口が 10 万人を割り込むまで減少したことに危機感を持った津山市は、人口減少に歯止めをかけ、人口増につながる移住・定住施策に取り組んだ。

目標は大きく 3 点。

- 1、津山市へ帰ってこられる移住出来るまちへ
- 2、「18 歳の壁」の克服に向け高校・高専・大学との連携
- 3、出会いの場の創出

具体的な支援策として、仕事をあつせんする無料職業紹介センター、IJU ターン就職活動交通費助成などを実施。

（都市部から地方へ移住する I ターン。地方から都市部へ移住したあと、元の土地ではなくその近くに戻る J ターン。都市部で就職や入学した地元出身者が再び地元に戻る U ターン。）

住まいを提供するお試し住宅や住まい情報バンクを提供しあつせん。

18 歳の壁を克服するために、新規学卒者の地域内就職応援事業として、企業見学バスツアーや高校生のための企業ガイダンスの実施。地元企業合同説明会の開催などで、学生の地元就職を促す。

その結果、学生の地域内就職が増加している。

結婚の希望を叶える場として、クリスマスカップリングパーティなど出会い・結婚サポート事業の取り組み。

以上、これらの総合的な取り組みにより、人口増には至っていないが、減少速度の鈍化につながっている。

人口減少率、高齢化率ともに高い水準にある岬町にとって喫緊の課題であることから、津山市の先進事例にならい積極的に施策を取り入れていきたい。

研 修③

日 時：令和 5 年 11 月 7 日(火)13 時 30～16 時 30 分

場 所：西栗倉村役場会議室
岡山県英田郡西栗倉村影石 33-1

担 当：産業観光課 白旗主任

内 容： テーマ「脱炭素の取り組みについて」

岡山県北東部に位置する西栗倉村（にしあわくらそん）は、人口 1384 人、南北 7 km 東西 14 km の山村。村面積の 93% を森林が占め、その 84% が人工林。78% がスギ・ヒノキ林。

2004 年、小規模市町の合併を奨励した平成の大合併を住民アンケートにより拒否し自立の道を選ぶ。

2008 年に「百年の森林構想」を着想したところから様々な取り組みが開始される。それまで荒廃していた村内の森林を将来にわたって育んでゆく事業を展開。国からの過疎債を有効に活用し、共有財産である人工林の整備を手掛けることにより、雇用や人材の確保につながり、新たな産業を生み出した。間伐作業で発生する木くずは経費の掛かるゴミであったが、整備が進むと大量に発生する木くずを利用して、バイオマス設備を整備。これを燃料として公共施設の暖房・給湯に利用し、小型ガス発電を行っている。

村内を流れる川を利用して小規模水力発電設備を設置し、売電により収益をあげている。新たな事業を開始したことによる雇用の創出から人口増加を遂げている。

それまで村には何も無いという考え方を、そこにあるものに着眼し活用することによって、村の活性化を図ってきた手法は、大いに参考になった。今後、まったく同じ状況の岬町に活かしていきたい。

以上。